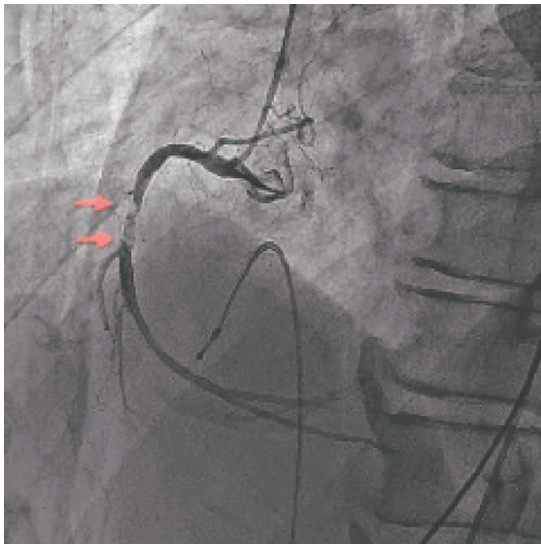


水野雄二副院長への取材記事が掲載されました

熊本日日新聞 夕刊【ことばの点滴83】 2016（平成28年）12月14日 掲載

急性心筋梗塞を起こした70代男性の症例。造影検査で右冠動脈に、血栓の付着が確認された（矢印の部分）。男性は飲酒で顔が赤くなるヘビースモーカーだった。治療や生活指導を受け、無事に退院。経過は順調という（水野雄二医師提供）



ことばの点滴

83

急性心筋梗塞が発症する遺伝的な危険因子として、摂取したアルコールを分解する過程で欠かせないアルデヒド分解酵素（ALDH2）の分解能力が低い遺伝子型が最も重要だと考えられるそうです。熊本機能病院（熊本市北区）の水野雄二副院長らの研究グループが突き止めました。お酒で赤くなる人は要注意です。（高本文明）

熊本機能病院副院長

水野雄二さんに聞く

「急性心筋梗塞は、心臓を取り囲んで心筋に栄養を送っている冠動脈が突然詰まり、突然死や心不全の原因となります。WHOの報告でも世界的に死因第1位の疾患です」

「飲酒後、アルコールは体内でどのように分解されますか。」

「アルコールの主成分エタノールは、肝臓で分解され、毒性を持つアセトアルデヒドに変化します。アセトアルデヒドを速やかに分解するためにALDH2が働き、無毒の酢酸まで分解されます」

「ALDH2は、アルデヒドを無害にする酵素なのでね。遺伝子型によって働き方に違いがあるのですか。」

急性心筋梗塞

飲酒で赤くなる人 注意



◇みずの・ゆうじ 熊本大医学部卒。専門は、心不全、虚血性心疾患、高血圧、冠動脈カテーテル治療など。日本高血圧学会指導医、日本循環器学会専門医。53歳。

「ALDH2の遺伝子型には、

分解する能力が高い高活性型と、分解能力が低い、またはほとんどない不活性型があります。世界では珍しく日本人の約40%は不活性遺伝子型です。で、お酒に弱く、顔が赤くなるアルコールフラッシング症候群の人が多く見られます」

「急性心筋梗塞との関連は、どのように解明したのですか。」

「当院または熊本大病院を受診した急性心筋梗塞の患者さんで、緊急冠動脈ステント術で詰まった冠動脈に再び血流を戻すことができた202人を対象に分析しました。このうち85例については、6カ月目の冠動脈造影時に冠攣縮誘発試験を行い、心電図の変化などから冠動脈の異常収縮の有無や程度を調べました。研究は、倫理委員会の承認と、患者さんの同意を得て進めました」

「結果から分かったことは。」

「患者さんの51%に不活性遺伝子型が見られ、日本人の割合を上回りました。冠動脈が異常収縮し心筋梗塞や突然死などを招く冠攣縮と、アルコールフラッシング症候群の頻度が高いことも突き止めました。さらに不活性遺伝子型では、心筋障害が大きくなることも分かりまし

た」

「急性心筋梗塞の発症に、ALDH2の不活性遺伝子型、そして、冠攣縮が関与していることが明確になったのですね。」

「今回の研究で、欧米人と異なり、日本人では、遺伝的に毒性アルデヒドを分解する能力が低く冠攣縮を通して心筋梗塞に至る方が多いことが分かりました。そのような方は、心筋梗塞後の対応にも注意が必要です」

「毒性のあるアルデヒドが増えると、どうなるのでしょうか。」

「アルデヒドが蓄積していくと、血管の内皮機能障害を引き起こし、冠攣縮、急性心筋梗塞などの心血管病を発症します。また、食道がん、肺がん、咽頭がんなど多くのがんの発症に幅広く関与していると考えられます」

「喫煙でもアルデヒドが増えるのですか。」

「たばこの煙には、有毒なアルデヒド類が多く含まれています。アルデヒド類は、喫煙者が直接吸い込む主流煙よりも、火元から出る副流煙の中に、特に多く含まれています。このため、禁煙するだけでなく、受動喫煙も避けてください。そして体質を超えた飲酒にも注意が必要です」